

試合は七段の部は志津野選手で1回戦は山口の福田選手で2対1で勝利、この1回戦に勝ったことが大きかったと思います。

続いて2回戦は秋田の戸田選手に3対0、3回戦は埼玉の永井選手 3対0、4回戦は京都のブライヤーボウ選手 2対1、準決勝戦は神奈川の原田選手に0対3で負けましたが、ベスト4に入っ

て、がんばりました。審判長の井出先生の総評の中に志津野選手に対して正統な居合で楽しみな存在と評されました。

六段は1回戦で敗退、五段は1回戦シード、2回戦は3対0、3回戦は1対2で敗退しました。総合で12位で終わりました。

全日本大会を終えて今後の課題として、正統な居合を目指して、技の正確、仮想敵、緩急、強弱など気迫のこもった居合を目指し、居合道部全員で取り組み、来年度以降の全国大会には今回より上位を目指してより良い成績が残せるように努力したいと思っています。

### ◎第53回東海四県対抗居合道大会

監督 矢澤夏女

令和5年3月5日(日)静岡県藤枝市の静岡県武道館にて開催された。コロナ禍のため中止が続き、実に4年ぶりの大会となった。

本県は昨年12月から14名の選手候補を選出し、下半身強化とケガのない体づくりを取り入れた強化稽古をおこなった。

1月には9名の選手を決定し、コロナ禍のために替えの選手の必要性も考え、引き続き14名で稽古を続けた。

指定技は、「前」「柄当て」「諸手突き」「添え手突き」「四方切り」の五本であった。試合が始まる前に円陣を組んで氣勢を上げたが、第一試合の愛知には1対8の大敗。初出場の先鋒平田、次鋒尾崎、7将伊藤、5将小川の各選手の緊張が後ろ姿からもうかがえた。6将平賀の旗3本の勝ちから流れが変わることを期待したが、流れは変わらなかった。

二試合目の静岡戦では硬さも取れ一進一退の攻防となったが、期待された後半の高校者がごとく負け、3対6で敗退となった。三試合目の三重戦では前半戦で勝ちを重ねたものの後半で負けが込んだが、リードを守り辛くも5対4で勝利して、四県中三位の成績で幕を閉じた。

降っていた雨も大会の閉幕と共に上がり、夕日に向かって帰るそれぞれの胸中には苦い思いの方が多かったであろうと推察された。「来年も選手になってリベンジしたい！」と強く思う選手が何名もいることを来年につなげたい。全勝賞の平賀選手をはじめ、稽古に励んだすべての選手の健闘に敬意を表したい。ご指導いただいた先生方、審判、役員の先生方、遠路応援に駆けつけてくださった皆様に感謝申し上げます。



- 選手
- 先鋒 平田 桜
  - 次鋒 尾崎 嘉秀
  - 7将 伊藤 弘成
  - 6将 平賀 友大
- 二段 小川 誠
- 三段 村橋 祐輝
- 四段 澤田 健
- 五段 栗本 英
- 六段 五十嵐啓司 鍊士
- 六段 鍊士

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
愛知県	上田	篠原	福田	市川	高橋	西川	加藤	浅野	近藤	8	22
	3	3	2	0	3	3	2	3	3		
岐阜県	0	0	1	3	0	0	1	0	0	1	5
	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐		

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
岐阜県	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐	3	9
	0	2	1	2	2	1	0	0	1		
静岡県	3	1	2	1	1	2	3	3	2	6	18
	宗村恵	増田	余吾	伊奈	清水	宗村一	新島	山本	大田		

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
岐阜県	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐	5	14
	3	2	0	3	2	3	0	0	1		
三重県	0	1	3	0	1	0	3	3	2	4	13
	伊藤	山下	宮田	前川	片山	藤田	辻	森下	川口		